

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102444		
法人名	医療法人社団 和恵会		
事業所名	グループホーム 入野やわらの家		
所在地	浜松市西区入野町6410		
自己評価作成日	令和2年 10月 22 日	評価結果市町村受理日	令和2年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和2年 11月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・入居者の皆様が地域の一員として暮らしが継続されるよう入野町自治会や老人クラブに加入して地域行事に参加させて頂き、地域の皆様と交流を図っています。自治会長、副会長、民生委員の方々が運営推進会議に参加して下さっていることでグループホームの状況や入居者様の様子をよく理解して下さっており、行事に参加させて頂いた際には地域の皆様との交流を援助して下さいます。またグループホームでも『地域交流会』として夏祭りや健康講座等を開催し、地域の皆様もご参加頂けるよう工夫をしています。(今年度は新型コロナウイルスの関係で開催中止しています)</p> <p>・『希望が叶い笑顔で暮らす』をホームの方針とし、日常生活の関わりの中で入居者様の希望を聞き取り、叶えるよう努力しています。希望が叶えられた際の入居者様の笑顔が職員のやりがいに繋がっています</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者一人ひとりが自治会や老人クラブに加入したり、地域行事に参加したりして、地域の住民として暮らし続けられるように支援している。また、水害等の災害について協力体制を地域と築いている。友人知人の面会や馴染みの場所に行ったり馴染みの人に会ったりと関係継続の支援を積極的にしている。家族の方に運営推進会の報告や「入野やわらの家だより」で、利用者の様子を写真で知らせたり、随時要望を伺ったりして、家族と一緒に利用者を支えている。一人ひとりの身体状況、生活歴や暮らし方、生活環境等の情報から人となりを理解して、その人らしい生活の継続や認知の低下によってできていたことができなくなっても、もっている力を発揮できる支援を大切にしている。「散歩に行きたい」買い物に行きたい「喫茶店に行きたい」等や、突然の要望にもきめ細やかに応じている。すべてにおいて一人ひとりの思いを大切に、家庭的で居心地の良い環境を整え、人らしい生活の継続を推進している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「親切・丁寧・平等」を基本に、ホーム独自の方針「希望が叶い笑顔で暮らす」を掲げ、その人らしく暮らし続けることを支援しています。また入居者様の希望を付箋に貼って見える化し、職員間で共有、実践に繋げています。	法人理念から年度ごとの事業体目標が掲げられ、それを基にGHの特性を踏まえ、事業所方針を定めている。入職時の説明や毎日の唱和で意識付け、具体的目標を掲示して共有化を図り、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様は自治会、老人会に加入し、地域の行事や老人会の月例会等に参加するとともに、地域交流会を通じて交流を図っています。	利用者は全員自治会に加入しており、老人会の定例会に数名が毎月参加している。地域の花見会や祭りに参加したり、地域交流会を催したり、多くのボランティアの訪問があったりと、日常的に交流している。	利用者が作製した作品を地域で常設する等の取り組みから、利用者の力の発揮、意欲の向上を図り、地域の一員として暮らす支援。また、地域の方が認知症の理解を深める啓発になることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域交流会を通じて地域の方に理解を広めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し、ホームの現状、困難事例、アンケート結果等を報告し、その場で頂いたご意見を参考に改善を図っています。	偶数月に、正・副自治会長、民生委員、地域活動グループ会長、家族代表、行政、地域包括支援センター大平台の参加で開催され、報告や意見交換をしている。自治会より水害対策として土嚢の設置について助言を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課の担当者様とは運営推進会議他、必要に応じて連絡をとっています。運営推進会議にてお顔を合わせる為、連絡が取りやすい関係ができています。	2ヶ月に一度の運営推進会議には毎回出席があり、運営方針や状況報告の中で事業所の理解を得、協力関係を築き、意見交換をしている。最近では、コロナ禍での利用者支援やご家族への対応、留意点等助言を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年法人内研修に参加することで身体拘束がもたらす弊害や禁止項目について理解を深めるとともに委員会活動を通じて毎月のユニット会議内でも現状の評価やケアの工夫について話し合いをしています。	月1回、病院長・医師・看護師・リハビリ職等全職種で構成された身体拘束廃止委員会の開催し、法人全体で身体拘束をしないケアを推進している。年2回の法人内研修で具体的な禁止行為や弊害を学び、ユニット会議で現状の評価・検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修に参加することで理解を深めるとともに、身体拘束同様、毎月のユニット会議内で現状の報告や相談、ケアの工夫について話し合いをしています。認知症ケアにおける職員のストレスにも目を向け、事業所全体でケアの工夫を考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修、外部研修等に参加することで理解を深め、必要な入居者様にはそれらを活用できるよう支援していく体制を整えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退居に関しては十分な時間を取り、これまでの事例等を通じてご家族や入居者様が理解を深め、納得できるよう丁寧に説明をしています。ご家族や入居者様の不安や疑問には真摯にお応えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、ご家族様満足度アンケートを実施し、意見や要望を頂く機会を設けており、頂いたご意見、ご要望についてはすぐにサービスに反映できるよう努めています。またアンケートの改善事項についてもご家族様に返信をしています。	年1回ご家族様満足度アンケートを実施したり、意見箱を設置したりして機会を設けている。家族会の開催や利用者の近況を伝えることで具体的な意見や要望を頂いている。利用者の一言から食べたいものを聞き出し、お楽しみ会に反映した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議内や職員面談、日常の中から職員の意見や提案を聞き、日々の業務やサービスに反映しています。	月1回のユニット会議や年2回の個人面接で話し合ったり、日常の中で都度聞いたりしている。全員で検討し支援に反映している。職員の提案から、面会制限がある現在、写真で様子を知らせて家族に安心して頂いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種資格取得の為の支援や永年勤続表彰、リフレッシュ休暇、誕生日祝い金支給等があります。また段位制度の導入や事例研究発表の評価から職員のやりがいに繋がる取り組みも行なっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育履修計画により職員は各種の研修が受けられる体制になっているとともに、力量、経験年数、自発性などに応じた外部研修への参加もしています。また実務者研修を受けやすい体制を法人で整えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	浜松市連絡協議会を通じて研修に参加することで他施設との交流を図っています。また管理者が集まりサービスの向上、情報交換等、相互に質を高めるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前又は入居時の面談時、ご本人の意向を聞く機会をもつとともに入居初期では多くの声掛け、関わりにより信頼関係が築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前または入居時面談時等、ご家族の意向を聞く機会を持つとともに、入居初期においてはご本人の様子を丁寧に報告してコミュニケーションをとっています。またご家族が安心できるような報告ができるよう職員は関わりを多く持つようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の希望を受け止め、必要に応じた施設を紹介したり、新たなサービス利用の提案等を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で職員とともに家事を行ない、これまでの生活の知恵や経験を活かして頂いています。また活動を行なう時にもご本人の意思を確認した上で行ない、こちらからの一方的な介護にならないよう関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の日常の様子を随時ご家族へお伝えし、電話の取り次ぎや面会の依頼等、入居者様を共に支えていけるようご家族との関係も大切にしています。また協力が得られるよう日常的にコミュニケーションを図っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人等の面会も歓迎しています。また顔なじみの方にお会いできるよう積極的に外出、買い物等に出掛けています。知人の葉書を出したり、電話をしたりとこれまでの関係が続くよう支援をしています。	訪問しやすい環境を作り、友人・知人、近所の方や教え子が面会に来られるように積極的に関係継続を支援をしている。地域の店や場所に出かけ、馴染みの人に会えるようにしている。遠足で復興会館やフラワーパーク、自衛隊浜松基地や科学館等利用者の思い出の場所にも行って	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の座席位置に配慮し、入居者同士が気持ちよく過ごせる環境をセッティングしています。また不安を訴えている入居者様がいれば、別の入居者様に関わりを依頼することもあり、ともに支え合える関係作りを支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループ内のサービス利用者については職員間の情報共有を行うとともに面会訪問、ご家族からの相談受付、必要に応じた支援をし、これまでの関係性を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	当GHの方針でもあり、願いを聞き取る、汲み取る取り組みを行なっています。何気ない会話からでも希望が聞けるよう常に気に掛けています。意思表示が困難な方には関わりの中から小さな気づきが得られるよう努め、ご家族にも伺ったりしています。	「希望を叶え笑顔で暮らす」が実現できるように、希望や意向の把握に積極的に取り組んでいる。お風呂の時間はリラックスして、いろいろな思いを聞くことができるので大切にしている。困難な方は、表情や状況から汲み取るように職員全員で努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報録、ご家族からの聞き取り等からこれまでの生活歴や暮らし方等を把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートの活用、ユニット会議内での情報提供、日々の記録、連絡ノート等々から現状を把握するとともに、関わりの中からお本人の有する能力を見つけ、引き出せるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントシートに個々の職員が持っている情報を記入し、そのシートをもとに担当者会議にて入居者、ご家族と話し合い、現状に即した介護計画の立案に努めています。	職員の持っている情報をまとめたアセスメントシートにもとづき、利用者家族、作業療法士や看護師等関係者と現状に即したものを作成している。できなくなったことでもかたちを変えて、力が発揮できるように支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンに入力された個人の介護記録を利用し、職員間で情報を共有しています。またアセスメントシートの活用、ユニット会議での相談、検討等を日々の実践、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時々に応じて作業療法士や歯科衛生士、相談員等と連携し、専門職からの助言や支援方法を学び、サービスの多機能化に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受け入れ、地域商店への買い物等、地域資源を把握、活用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一法人の協力病院と連携を図り、入居者様の状態について常に相談できる体制になっています。必要時適切な医療を受けられることでご家族、本人の安心に繋がっています。	同一敷地内にある医療機関と連携して、一人ひとりに対応した医療が受けられるように支援している。看護師と常に情報交換し、適切な医療を受けられるようにしている。夜間対応マニュアルが整備され、緊急時には医師が来訪してくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適宜、相談・対応ができる体制になっています。専門職に相談することでその時々適切な医療、看護を提供しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院においては関係先と連絡、情報交換し、本人やご家族が安心できるように努めています。また早期の退院、ホームでの受け入れに向けて情報交換を密にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に本人、ご家族等へ重度化した場合の対応について十分な理解が得られるよう時間をかけて丁寧に説明しています。また医師や看護師にも相談しながら状態に応じ事業所でできることを説明しています。	利用者や家族には「重度化した場合における対応に関わる指針」に基づき具体的に説明して理解を得ている。日々医師や看護師と情報交換しているので、状態が変化した場合でも連携して、最善の支援に努めている。利用者家族が不安にならないよう都度話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修への参加、緊急マニュアルの整備、模擬訓練等実践力が身につくよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行ない、実践力を身につけています。また運営推進会議を通じて地域の方にも協力を依頼したり、現状を把握して頂いています。	定期的な避難訓練やマニュアルの整備をしている。エレベーターが停止した場合を想定して、利用者をおぶったり、毛布を使ったりした訓練を実施している。水害の危険性が高い地域の為、土嚢の活用や災害に対するアドバイスを地域の方から頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時や年間教育計画、委員会の取り組み等から接遇研修を行ない、尊厳を守る対応に留意しています。また一人一人の性質、性格等を十分に把握した上でそれぞれに合った対応をしています。	入職時から研修等を通して「尊厳を守るケア」を法人全体で推進している。食堂で「利用者の身体や病気等プライバシーにかかわるの話をしない」を徹底している。一人ひとりを知り、その人に合った声掛けをや対応している。新職員にも人となりから教えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を共にしながら会話や関わりの中で思いや希望を聞き出しています。また一人一人の状態に応じ、自己決定ができるような声掛けを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、本人の思いや希望を言葉や態度から汲み取り、無理強いあるいは職員側の都合を優先しないよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カラーリングや化粧、ひげ剃り等それぞれの入居者が好むおしゃれができるよう個々に支援しています。またショッピングにお連れしたりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と職員がともに食事準備や片付けを行ない残存能力を活用しています。またバイキングやお楽しみ昼食会、行事食の提供等、食事が楽しみとなる工夫をしています。	当日の担当者が利用者と話し合い、ある食材でメニューを決めて一緒に作り、片づけをしている。旬の食材や目でも楽しめる食事、生活習慣を大切にしている。医師の許可を得てビールを飲んだり、たまに晩酌したりする人もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を記録し、月2回の体重測定を一つの目安としています。また水分摂取量確保の為それぞれの嗜好、習慣に合った飲み物の提供する工夫もしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に応じた口腔ケアを行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの表示、戸の開放、トイレ内の備品設置工夫等、排泄の自立に向けた工夫をしています。また入居者様の状態に応じて記録や職員間の情報共有によりトイレ誘導を行なっています。	一人ひとりの尿意・尿量、身体能力や生活習慣、排泄環境、排泄パターン等の詳細な排泄アセスメントから、自立に向けた支援を行っている。居室にトイレが設置されているため、個々の力・状態に即した取り組みを実施しやすい環境にある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には水分摂取を促したり、ヨーグルトや牛乳等その方に応じた支援をしています。また適度な運動も促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	それぞれに合った入浴方法で入浴しており、希望やタイミング等尊重しています。入浴拒否の方には無理強いすることなく、時間や人を替えて、あるいは日を変えて個々に沿った支援をしています。また職員は入浴の効果、目的を理解し、支援しています。	生活習慣や好み入浴用品、温度や湯量、こだわりを尊重して、一人ひとりに希望に沿った支援をしている。入浴を楽しむことを大切に心身ともにリラックスできるように努めている。皮膚の状態から体調の確認をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は快眠できるよう居室の照明、温度等個々に調整しています。また夜間不眠や不安の様子があればホットミルクを提供したりお話を傾聴して安心できるよう支援しています。日中は個々の生活習慣、その時々状況に応じて休息をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬について薬説明書を常にユニットに設置し、随時確認していることで理解されています。また症状、状態の小さな変化に気づけるよう観察し、記録に残して情報共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴の中から本人の張り合いや喜びとなるような役割の発見や、楽しみごとが発見できるよう関わり、本人の表情や様子等から個々の対応を検討、実施(支援)しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物、散歩等、希望に応じて戸外へ出掛ける支援をしています。また本人の希望に応じて外出先を決定し、楽しみ、気分転換となるよう外出支援をしています。	毎日散歩に行き、日光浴や季節を感じて気分転換を図っている。日常的に個々の希望に沿って買い物に出掛けたり外出したりしている。一人ひとり目的が違うので希望を聞き、支援に努めている。遠足は普段いけない場所にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望、理解、ご家族の協力等からお金を所持している方もおり、散歩時に自販機で飲み物を購入したり、お店で支払いをしたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望に応じていつでも電話をかけたり、手紙のやりとりができるよう支援をしています。また携帯電話の所持も希望があれば可能であることを入居前に説明させて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は季節に応じた飾り物、雑誌の設置、くつろげるソファや椅子の設置等工夫しています。日常の中で混乱を招くような出来事があればそのつど検討したり、テレビの音量を調節したりと常に居心地の良い空間作りをしています。	毎月に利用者が作成した季節の飾り物や、新聞や昔見た雑誌を置いたり椅子やソファの設置したりして、安らげる空間を作っている。いつもと違うものがある場合は、片付けたり、布を掛けたりして混乱を防いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サンルームで日光浴をしたり、ソファでくつろいだり、気の合った方とゲームをしたりお話ししたり、自室でお菓子を食べたり。思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前には馴染みのある家具や使い慣れた物を持参頂くようご家族に依頼をしています。また本人の意向や生活の様子から必要に応じて環境を整える支援をしています。	ベッド、トイレ、洗面台は備えられている。馴染みのもの、使い慣れたもの、好みのもの、大切なものを活かして、今までの生活が継続できるように支援している。認知の低下によって冷蔵庫を使用することが難しくなった人の状態に合わせて、環境を整えた例がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室等に手すりを設置しており安全かつ自立した生活が送れるような設備になっています。また個々の状態に応じ、トイレ内に尿取りパットを設置する、張り紙を貼る等、能力が活かせる工夫をしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102444		
法人名	医療法人社団 和恵会		
事業所名	グループホーム 入野やわらの家		
所在地	浜松市西区入野町6410		
自己評価作成日	令和2年 10月 22日	評価結果市町村受理日	令和2年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和2年 11月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者の皆様が地域の一員として暮らしが継続されるよう入野町自治会や老人クラブに加入して地域行事に参加させて頂き、地域の皆様と交流を図っています。自治会長、副会長、民生委員の方々が運営推進会議に参加して下さっていることでグループホームの状況や入居者様の様子をよく理解して下さっており、行事に参加させて頂いた際には地域の皆様との交流を援助して下さいます。またグループホームでも『地域交流会』として夏祭りや健康講座等を開催し、地域の皆様もご参加頂けるよう工夫をしています。(今年度は新型コロナウイルスの関係で開催中止しています)

・『希望が叶い笑顔で暮らす』をホームの方針とし、日常生活の関わりの中で入居者様の希望を聞き取り、叶えるよう努力しています。希望が叶えられた際の入居者様の笑顔が職員のやりがいにも繋がって

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「親切・丁寧・平等」を基本に、ホーム独自の方針「希望が叶い笑顔で暮らす」を掲げ、その人らしく暮らし続けることを支援しています。また入居者様の希望を付箋に貼って見える化し、職員間で共有、実践に繋げています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様は自治会、老人会に加入し、地域の行事や老人会の月例会等に参加するとともに、地域交流会を通じて交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域交流会を通じて地域の方に理解を広めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し、ホームの現状、困難事例、アンケート結果等を報告し、その場で頂いたご意見を参考に改善を図っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課の担当者様とは運営推進会議他、必要に応じて連絡をとっています。運営推進会議にてお顔を合わせる為、連絡が取りやすい関係ができています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年法人内研修に参加することで身体拘束がもたらす弊害や禁止項目について理解を深めるとともに委員会活動を通じて毎月のユニット会議内でも現状の評価やケアの工夫について話し合いをしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修に参加することで理解を深めるとともに、身体拘束同様、毎月のユニット会議内で現状の報告や相談、ケアの工夫について話し合いをしています。認知症ケアにおける職員のストレスにも目を向け、事業所全体でケアの工夫を考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修、外部研修等に参加することで理解を深め、必要な入居者様にはそれらを活用できるよう支援していく体制を整えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退居に関しては十分な時間を取り、これまでの事例等を通じてご家族や入居者様が理解を深め、納得できるよう丁寧に説明をしています。ご家族や入居者様の不安や疑問には真摯にお応えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、ご家族様満足度アンケートを実施し、意見や要望を頂く機会を設けており、頂いたご意見、ご要望についてはすぐにサービスに反映できるよう努めています。またアンケートの改善事項についてもご家族様に返信をしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議内や職員面談、日常の中から職員の意見や提案を聞き、日々の業務やサービスに反映しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種資格取得の為の支援や永年勤続表彰、リフレッシュ休暇、誕生日祝い金支給等があります。また段位制度の導入や事例研究発表の評価から職員のやりがいに繋がる取り組みもなっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育履修計画により職員は各種の研修が受けられる体制になっているとともに、力量、経験年数、自発性などに応じた外部研修への参加もしています。また実務者研修を受けやすい体制を法人で整えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	浜松市連絡協議会を通じて研修に参加することで他施設との交流を図っています。また管理者が集まりサービスの向上、情報交換等、相互に質を高めるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前又は入居時の面談時、ご本人の意向を聞く機会をもつとともに入居初期では多くの声掛け、関わりにより信頼関係が築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前または入居時面談時等、ご家族の意向を聞く機会を持つとともに、入居初期においてはご本人の様子を丁寧に報告してコミュニケーションをとっています。またご家族が安心できるような報告ができるよう職員は関わりを多く持つようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の希望を受け止め、必要に応じた施設を紹介したり、新たなサービス利用の提案等を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で職員とともに家事を行ない、これまでの生活の知恵や経験を活かして頂いています。また活動を行なう時にもご本人の意思を確認した上で行ない、こちらからの一方的な介護にならないよう関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の日常の様子を随時ご家族へお伝えし、電話の取り次ぎや面会の依頼等、入居者様を共に支えていけるようご家族との関係も大切にしています。また協力が得られるよう日常的にコミュニケーションを図っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人等の面会も歓迎しています。また顔なじみの方にお会いできるよう積極的に外出、買い物等に出掛けています。知人の葉書を出したり、電話をしたりとこれまでの関係が続くよう支援をしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の座席位置に配慮し、入居者同士が気持ちよく過ごせる環境をセッティングしています。また不安を訴えている入居者様がいれば、別の入居者様に関わりを依頼することもあり、ともに支え合える関係作りを支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループ内のサービス利用者については職員間の情報共有を行うとともに面会訪問、ご家族からの相談受付、必要に応じた支援をし、これまでの関係性を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	当GHの方針でもあり、願いを聞き取る、汲み取る取り組みを行なっています。何気ない会話からでも希望が聞けるよう常に気に掛けています。意思表示が困難な方には関わりの中から小さな気づきが得られるよう努め、ご家族にも伺ったりしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報録、ご家族からの聞き取り等からこれまでの生活歴や暮らし方等を把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートの活用、ユニット会議内での情報提供、日々の記録、連絡ノート等々から現状を把握するとともに、関わりの中からご本人の有する能力を見つけ、引き出せるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントシートに個々の職員が持っている情報を記入し、そのシートをもとに担当者会議にて入居者、ご家族と話し合い、現状に即した介護計画の立案に努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンに入力された個人の介護記録を利用し、職員間で情報を共有しています。またアセスメントシートの活用、ユニット会議での相談、検討等を日々の実践、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時々に応じて作業療法士や歯科衛生士、相談員等と連携し、専門職からの助言や支援方法を学び、サービスの多機能化に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受け入れ、地域商店への買い物等、地域資源を把握、活用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一法人の協力病院と連携を図り、入居者様の状態について常に相談できる体制になっています。必要時適切な医療が受けられることでご家族、本人の安心に繋がっています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適宜、相談・対応ができる体制になっています。専門職に相談することでその時々適切な医療、看護を提供しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院においては関係先と連絡、情報交換し、本人やご家族が安心できるように努めています。また早期の退院、ホームでの受け入れに向けて情報交換を密にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に本人、ご家族等へ重度化した場合の対応について十分な理解が得られるよう時間をかけて丁寧に説明しています。また医師や看護師にも相談しながら状態に応じ事業所でできることを説明しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修への参加、緊急マニュアルの整備、模擬訓練等実践力が身につくよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行ない、実践力を身につけています。また運営推進会議を通じて地域の方にも協力を依頼したり、現状を把握して頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時や年間教育計画、委員会の取り組み等から接遇研修を行ない、尊厳を守る対応に留意しています。また一人一人の性質、性格等を十分に把握した上でそれぞれに合った対応をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を共にしながら会話や関わりの中で思いや希望を聞き出しています。また一人一人の状態に応じ、自己決定ができるような声掛けを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、本人の思いや希望を言葉や態度から汲み取り、無理強いあるいは職員側の都合を優先しないよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カラーリングや化粧、ひげ剃り等それぞれの入居者が好むおしゃれができるよう個々に支援しています。またショッピングにお連れしたりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と職員がともに食事準備や片付けを行ない残存能力を活用しています。またバイキングやお楽しみ昼食会、行事食の提供等、食事が楽しみとなる工夫をしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を記録し、月2回の体重測定を一つの目安としています。また水分摂取量確保の為それぞれの嗜好、習慣に合った飲み物の提供する工夫もしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に応じた口腔ケアを行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの表示、戸の開放、トイレ内の備品設置工夫等、排泄の自立に向けた工夫をしています。また入居者様の状態に応じて記録や職員間の情報共有によりトイレ誘導を行なっています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には水分摂取を促したり、ヨーグルトや牛乳等その方に応じた支援をしています。また適度な運動も促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	それぞれに合った入浴方法で入浴しており、希望やタイミング等尊重しています。入浴拒否の方には無理強いすることなく、時間や人を替えて、あるいは日を変えて個々に沿った支援をしています。また職員は入浴の効果、目的を理解し、支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は快眠できるよう居室の照明、温度等個々に調整しています。また夜間不眠や不安の様子があればホットミルクを提供したりお話を傾聴して安心できるよう支援しています。日中は個々の生活習慣、その時々状況に応じて休息をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬について薬説明書を常にユニットに設置し、随時確認していることで理解されています。また症状、状態の小さな変化に気づけるよう観察し、記録に残して情報共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴の中から本人の張り合いや喜びとなるような役割の発見や、楽しみごとが発見できるよう関わり、本人の表情や様子等から個々の対応を検討、実施(支援)しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩等、希望に応じて戸外へ出掛ける支援をしています。また本人の希望に応じて外出先を決定し、楽しみ、気分転換となるよう外出支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望、理解、ご家族の協力等からお金を所持している方もおり、散歩時に自販機で飲み物を購入したり、お店で支払いをしたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望に応じていつでも電話をかけたり、手紙のやりとりができるよう支援をしています。また携帯電話の所持も希望があれば可能であることを入居前に説明させて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は季節に応じた飾り物、雑誌の設置、くつろげるソファや椅子の設置等工夫しています。日常の中で混乱を招くような出来事があればそのつど検討したり、テレビの音量を調節したりと常に居心地の良い空間作りをいています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サンルームで日光浴をしたり、ソファでくつろいだり、気の合った方とゲームをしたりお話したり、自室でお菓子を食べたり。思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前には馴染みのある家具や使い慣れた物を持参頂くようご家族に依頼をしています。また本人の意向や生活の様子から必要に応じて環境を整える支援をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室等に手すりを設置しており安全かつ自立した生活が送れるような設備になっています。また個々の状態に応じ、トイレ内に尿取りパットを設置する、張り紙を貼る等、能力を活かせる工夫をしています。		